

# ニュース・フラッシュ

## 国産材マーク発足1周年を前に普及状況をチェック

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）の森林再生事業化委員会（委員長 米田雅子・慶應大学特任教授）は4月25日に東京都中央区の鉄鋼会館で「国産材マーク進捗報告会」を開催した。昨年8月に運用を始めた国産材マーク（第456・462・467号参照）がこの夏で1周年を迎えるのに先立ち、普及状況を点検した。

報告会には、国産材マークを貼付した製品を供給しているA会員とユーザーであるB会員の約50社が出席。大手ハウスメーカーなどが国産材マークの使用に乗り出していることを説明した。

平成24年の国産材使用量が約12万㎡に達しているタマホーム（株）は、毎月1回、全国で約2000万部配布しているチラシに国産材マークを掲載しているほか、建築現場で使用する材料にもマークが印字されたものを用いており、取引先・仕入先にも協力を要請している。



タマホームが配布しているチラシ。右下に国産材マークが掲載されている。

2×4賃貸住宅にスギを利用して大東建託（株）も、岩手県産の気仙スギに国産材マークを刻印し、足場養生シートにマークの垂れ幕を採用するなど「見える化」を推進。同社の国産材利用実績は平成21年度の11棟・113㎡から25年度は144棟・1670㎡に増加しており、来年は九州産のスギを2×4用たて枠材に活用することで、年間3万㎡の国産材利用を目指している。

流通大手のナイス（株）は、住まいの耐震博覧会などのイベントで国産材マークを掲示しているほか、5月に稼働する徳島工場から出荷する製品にもマークを添付する方針だ。

### 大手主導で「見える化」進む



東建託は養生シートに国産材マークの垂れ幕を使用

一方、A会員である、国産材製材協会や日本集成材工業協同組合、日本合板工業組合連合会などの会員企業も、国産材マークを表示した製品の生産・出荷量を増やしている。

日本複合床板工業会は、会員18社のうち6社が20製品について国産材マークを使用しており、日本製紙グループの（株）パルは国産針葉樹MDFなどを使ったフローリング製品の梱包にマークを表示。また、フローリング基材を南洋材から国産材へ切り替えている大建工業（株）は、6月に国産材マークをつけた新製品を発売することを明らかにした。

このほか、大分県木材組合協同組合連合会は、昨年10月に北九州で開催した「第1回九州材フェア」（第472号参照）で国産材マーク製品の初出荷式を行うなど、さまざまな取り組みが始まっている。